TUS AMBASSADOR CONTEST 2026

Special Issue Vol.23



『多様な個性、無数の解。』

FINALIST INTERVIEW

FEATURES 特集

4 Entry No.1 岡本 侑己（おかもと ゆうき）
薬学部 生命創薬科学科 3 年

6 Entry No.2 高橋 英里沙（たかはし えりさ）
創域理工学研究科 数理科学専攻 修士 1 年

8 Entry No.3 羽金 日陽（はがね ひより）
先進工学部 マテリアル創成工学科 3 年

10 Entry No.4 小寺 泰暉（こでら たいき）
経営学部 ビジネスエコノミクス学科 3 年

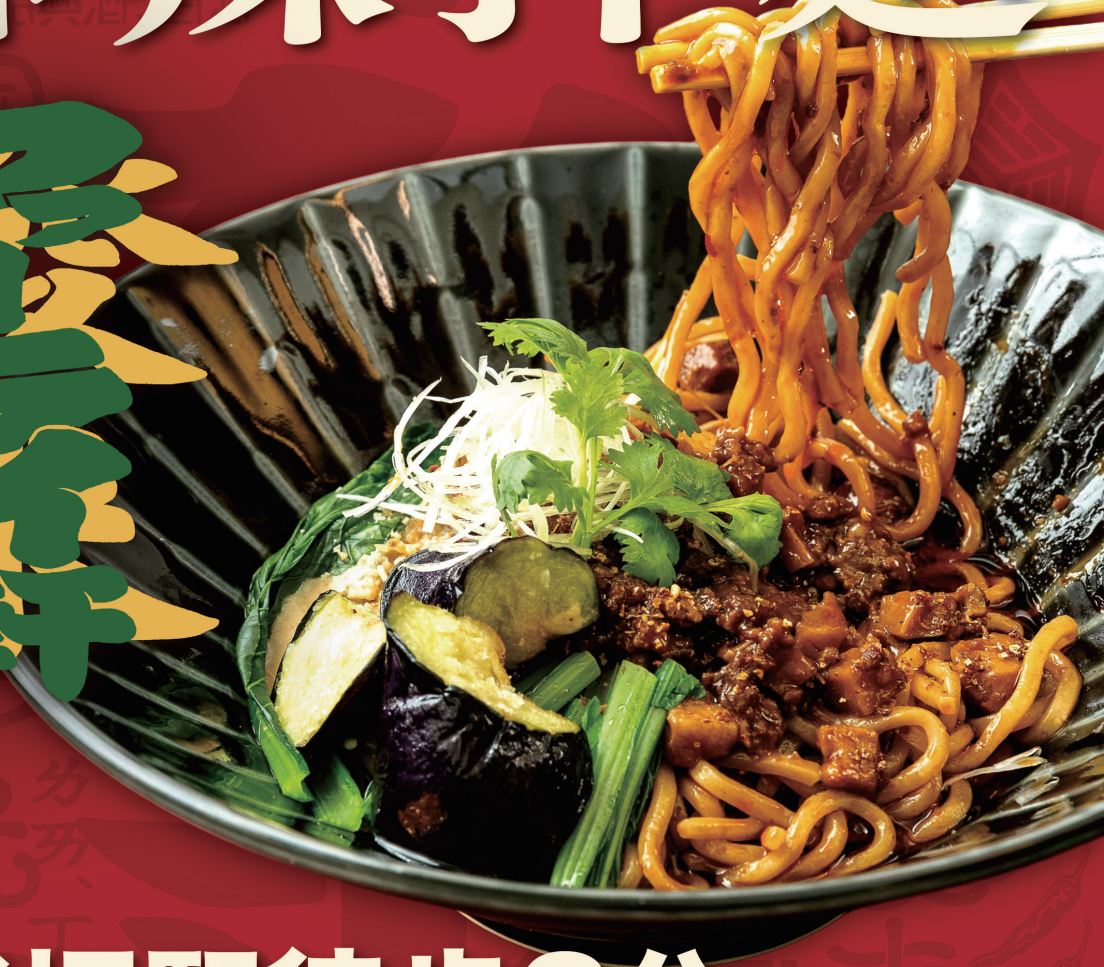
12 Entry No.5 今井 貴之（いまい たかゆき）
創域情報学部 情報理工学科 1 年

16 Entry No.6 金武 昌宏（かねたけ まさひろ）
工学部 電気工学科 4 年

まーらーばんめん

麻辣拌麺

蓉華軒



神楽坂駅徒歩3分

NEW OPEN



神楽坂駅A1出口から徒歩3分
〒162-0825
新宿区神楽坂6丁目8−23
TEL:070-5348-8997

トッピング1品無料券

TUS PRESS

※麺大盛・2口ごはん・ねぎ
パクチー・マヨネーズ・温玉
の中からお一人様1品までお選び頂けます



Entry NO.1

YUKI OKAMOTO

Q. アンバサダーコンテストに応募したきっかけを教えてください。
A. 最初は「一緒にやらないか」と声をかけてもらったのがきっかけです。ただ、最終的に自分で出ようと決めたのは、大学３年生になってからの自分を見つめ直したことが大きかったですね。1 年生の頃までは若さゆえか、人生に対する熱量がすごく高くて「向上心の塊」だったんです。でも学年が上がるにつれて、決してダレたわけではないのですが、内から出る「挑戦するエネルギー」のようなものが少しずつ減っているなと最近感じていて。挑戦する機会自体も減っていたので、「これはすごく良い機会をもらったな」と思い、参加を決めました。

Q. ご自身の最大のアピールポイントは何ですか？
A. 高い志と熱量を、1 つの目標に向けてまっすぐ費やせるところです。周りの人からも「まっすぐ努力するところが自分らしいね」とよく言われます。

Q. 大学生活で最も情熱を注いでいることは何ですか？
A. 正直、本当に「学業」にめちゃくちゃ情熱を注いでいます。他のことと両立するのが難しいくらい勉強に打ち込んでいるのですが、その分「学期中はしっかり勉強を頑張って、夏休みは思い切り遊ぶ」というメリハリのあるサイクルを意識しています。

Q. 理科大に入学した当初と比べて、ご自身が一番変わったと感じる部分はどこですか？
A. 計画が狂ったときに「立て直せる柔軟性」がついたことです。昔からテストに向けて計画的に物事を進めるスタンスだったのですが、理科大の勉強って本当に計画通りに進まないんですよ（笑）。特に２年生の前期が一番きつくて、初めて「自分の計画が何も通じない」という壁にぶつかりました。いつもなら３回くらいの計画修正でギリギリ間に合うのに、その時はテスト当日になっても範囲が終わらず、絶望しながら大学に向かったこともあります。以前は計画が崩れると「やばい、やばい」と焦るばかりでしたが、その挫折と反省を生かして、今では新しい計画の組み方ができるようになり、予定が狂っても柔軟にリカバリーできる力がついたと思います。

Q. 現在、新たに直面している壁はありますか？
A. コンテストの活動として SNS を動かしているのですが、フォロワーがなかなか伸びなくて、まさに今「絶賛挫折中」です(笑)。どうすればリール動画が伸びるか、投稿時間はいつがいいかなど、毎日試行錯誤しています。この壁をどう乗り越えられるかは、本当にこれからの自分次第ですね。この活動を通して、まだ見ぬ自分の「意外な一面」も新しく発見できたらいいなと思っています。

Q. 葛飾キャンパス内でお気に入りの場所はありますか？
A. 共創棟の２階にある、一番端っこの教室（200 番台の教室）です。そこは全面ガラス張りになっていて、奥に図書館の水辺から葛飾にいじゅくみらい公園まで一望できるんです。夕方の時間帯にそこで自習をすると、夕日がすごく綺麗に見えるので本当におすすめです！

Q. 理科大の魅力と、今後の目標について教えてください。
A. 理科大はどうしても「勉強ばかりで学校生活があまり面白くなさそう」というイメージを持たれがちです。実際、勉強はきついんですけど（笑）、その「きつさの中に楽しさがあるよ」というリアルな魅力を発信していきたいです。また、勉強が本当に好きなので、卒業後は大学院に進学し、いずれは博士課程も視野に入れながら創薬の研究を目指したいと考えています。学生生活が長くなる分、その期間の中でモデルとしても少しずつ活動の幅を広げていけたら嬉しいですね。

Q. 最後に『TUS+』の読者へ向けてメッセージをお願いします！
A. 最後まで絶対に諦めずに頑張るつもりなので、ぜひ応援よろしくお願いします！ Instagram のフォローもぜひお願いします！




Entry NO.2
ERISA
TAKAHASHI

Q. アンバサダーコンテストに応募したきっかけを教えてください。
A. 学部生の頃から、周りの友人に「出てみたら？」と背中を押してもらっていたのですが、なかなか自分から一歩を踏み出せずにいました。でも、大学院の 1 年生になり「いよいよ学生生活も最後だな」と思ったとき、今度こそ挑戦してみようと決心できたのがきっかけです。

Q. ご自身の強みや、周りから「自分らしい」と言われるところはどこですか？
A. いろんなことに幅広く興味を持てる「多趣味」なところと、どんな時でも「基本は笑顔」でいるところです。周りの友人からは、「無理して頑張りすぎている風でもなく、かといって怠けているわけでもない“メリハリのついた生き方”が高橋さんらしいね」とよく言われます。友人との距離感も、踏み込みすぎずちょうどいい関係性を大切にしているので、そこが良いと言ってもらえるのは嬉しいですね。

Q. 学業以外で、学生生活で情熱を注いでいることは何ですか？
A. 旅行や食べ歩き、そして「お祭り」です！ 私は地元の成田山新勝寺の大きなお祭りで育ったこともあり、今でも各地へ足を運んでいます。最近も大阪に行って岸和田のだんじり祭を見ました。地域によって山車の構造やタイヤの素材、お囃子の笛の音が全然違うので、それを見比べるのが大好きなんです。ピアノや書道などのインドアな趣味もありますが、社会人になる前の「明日を気にせず全力で楽しめるもの」に情熱を注いでいます。

Q. これまでの人生での挫折と、理科大に入ってからの変化を教えてください。
A. 一番の挫折は、お祭りなどの楽しみを全て犠牲にして勉強した第一志望の高校受験で失敗してしまったことです。でも、進学先の環境の中で「絶対に見返してやる」と切磋琢磨した経験が、今の大きなバネになっています。
大学入学当初は「少しでも休むと周りに置いていかれる」と自分を追い詰める真面目すぎるタイプでした。でも理科大に入ってから、オンとオフの「メリハリ」をつけるのが上手な人たちに出会い、良い意味で息抜きを許せるようになったんです。今では自分のペースで楽しく学べています。

Q. 野田キャンパスでお気に入りの場所や、よく入り浸っているスポットはありますか？
A. 7 号館の前のあたりです。あそこだけすごく綺麗で、タイルや木が植わっている雰囲気が好きですね。よく大学 1 年生がピクニックをしているような場所です。
あとはやっぱり、数理科学専攻の院生室によく入り浸っています。数理科学専攻の大学院生は 32 人いる中で女子が 2 人しかいなくて、まるで高校のクラスのようなのですが、その分すごくコミュニティが完成していて居心地がいいんです。夜にみんなで集まって、たこ焼きパーティーをすることもあります（笑）。

Q. コンテストを通じて発見したことと、発信したい理科大の魅力は？
A. 理科大って「ど真面目・チェックシャツ・ガリ勉」みたいなイメージを持たれがちですが、実際は明るくておしゃれで、遊ぶときは全力で遊ぶ人がいっぱいいるんです！ そんなリアルな魅力を発信していきたいです。
また、コンテストを始めてから「写真撮りに行こう！」と自ら協力してくれる友人の存在に改めて気づきました。私が築き上げてきた友人関係は大正解だったなと実感しています。将来は、そんな素敵な友人たちに恩返しができるよう、数理科学科で学んだ論理的な視点も活かしながら社会貢献できる自立した人間になりたいです。

Q. 最後に『TUS+』の読者へ向けてメッセージをお願いします！
A. 理大祭でのステージ審査（特技披露）では、私の特技である「ピアノ」と「書道」を組み合わせたパフォーマンスを披露します！ ぜひ会場に見に来てください！





Entry NO.3

HIYORI HAGANE

Q. アンバサダーコンテストに応募したきっかけを教えてください。
A. 一番の理由は、同じ学部学科の同い年の友人が去年コンテストに出ていたことです。挑戦している姿がすごくかっこよくて、「自分にもできるか試してみたい！」とインスピレーションを受けました。
また、高校までは部活で人前に出て頑張っていたのですが、大学に入ってからはサークル活動が中心で「本気で頑張る機会」が減っていたので、あえて自分でその機会を設けようと思ったのも大きな理由です。

Q. ご自身の最大のアピールポイントは何ですか？
A. 好奇心旺盛で色々なことに挑戦する「行動力」と、やると決めたら結果が出るまで「最後までやり遂げる力」です。周りからは「完璧主義だね」と言われることもあります。
でも実は、めちゃくちゃ「心配性」でもあるんです。自分にあまり自信がなくて、一人で抱え込んで自分を責めてしまうこともあります。そういう時は、前向きな言葉をかけてくれる友人たちに話を聞いてもらうことで乗り越えてきました。この「心配性」は長所でもあり短所でもありますが、だからこそ途中で投げ出さずにやり遂げられるのかなと思っています。

Q. 勉強やサークルなどで忙しい中でのリフレッシュ方法は何ですか？
A. サークルの仲間に話を聞いてもらうことです！みんな本当に仲が良くて、悩んでいる時に相談に乗ってもらうとすごく気持ちが軽くなります。周りに同じような状況で頑張っている仲間がいっぱいいるので、精神面でもとても助けられていますね。

Q. 大学生活で最も情熱を注いでいることと、最近の自分自身の変化を教えてください。
A. バスケサークルと、ダンスサークルです！ 特にダンスのステージ前は本当に練習を頑張りました。「すごいな」と思ったことは、やらないと絶対に後悔する性格なので、苦しくてもつい挑戦しちゃうんです。
大学に入って一番変わったのは、「自分から行動するようになったこと」です。高校までは親の意見を聞いてから動くことが多かったのですが、一人暮らしで家事や料理も全部自分でやるようになり、今では「こんなことやってるよ！」と事後報告することが多くなりました。親も「それが楽しいんでしょ？ やれんの？」と明るく応援してくれています。

Q. 葛飾キャンパス内で一番お気に入りの場所はどこですか？
A. やっぱり「共創棟」です！ スターバックスが入っていて、ソファもたくさんあってすごく綺麗なんです。サークルの仲間も基本あそこに居座っているので、そこに行けば誰かに会えるし、おしゃべりしてリラックスできる大好きな場所です。

Q. コンテストを通じて発見したことと、発信したい理科大の魅力を教えてください。
A. 一番の発見は「意外と SNS を運用できる自分」です。Vlog などのリール動画も、バズっている構成を勉強して作ってみたら意外と好評で。ただ、それも「写真撮りに行こうよ！」「この画角どう？」と協力して提案してくれる友人たちのおかげだと強く実感しています。
理科大生って「真面目で勤勉」というイメージですが、その裏にはお互いに助け合う「周りの優しさや協力」が絶対にあるんです。私もみんなの協力があるから頑張れているので、そういう温かい繋がりを伝えていきたいです。

Q. 卒業後に叶えたい目標は何ですか？
A. 卒業後は大学院に進学（院進）して、今の材料系の勉強を深めたいです。私の学科は物理系から化学系、半導体、光触媒など本当に幅広いのですが、私は将来「生体医療（人工骨やワクチンなど）」に関わる材料の研究に進んで、少しでも社会や日本に貢献できればいいなと考えています。

Q. 最後に『TUS+』の読者へ向けてメッセージをお願いします！
A. 理大祭当日は、私から皆さんに「笑顔と自信」を届けます！ 5 号館地下のステージでお待ちしているので、ぜひ会いに来てください！



Entry NO.4



TAIKI KODERA

Q. アンバサダーコンテストに応募したきっかけを教えてください。
A. 理科大って世間一般では「真面目なお堅いイメージ」がとても強いと思うのですが、その中でも「自分の好きなことを自由にやっている人もたくさんいるんだよ」というのを発信したくて応募しました。
僕自身、ファッションが好きでアパレルのバイトをしたり、サークルで K-POP ダンスをしたりと、わりと好きなことをやらせてもらっている側なので、自分の活動を通して「理科大でもこういう風にキラキラできるんだな」と少しでも多くの人に思ってもらえたらいいなと思っています。

Q. ご自身の最大のアピールポイントや、「自分らしい」と言われるところはどこですか？
A.「自分の好きなことに対しての熱量」です！ 周りからも「ハマったことには一直線だね」とよく言われます。例えばファッションでも、僕はスポーツカジュアルやストリート系が好きなんですが、そのジャンルだけを見るのではなく、モード系やアメカジ系など色々なジャンルを幅広く勉強して、少しずつ自分のスタイルに取り入れています。好きなことにはとにかく詳しくなるまで徹底的に調べて勉強する、一直線なところが自分らしさだと思います。

Q. 大学生活で最も情熱を注いでいることは何ですか？
A.「ダンス」です！ 大学に入ってから始めたのですが、サークル内で楽しく踊れるようになるまで本当にたくさん練習して頑張りました。
それと「ファッション」にも情熱を注いでいます。大学 1 年生の頃は服装もコロコロ変わっていましたが、だんだん自分のスタイルに筋が通ってきたと感じています。

Q. 理科大に入学してから、自分自身が一番変わったと感じる部分はどこですか？
A.「行動力がついたこと」です。高校までは先生の指導で動く部分が大きいですが、大学に入ると自分で考えて行動しないと、本当に授業だけで 4 年間が終わってしまいます。資格勉強や SNS 発信など、周りで自分で考えて動いている人たちを見て感化され、「思い立ったらとりあえず行動する」ようになりました。
このコンテストに出たことも、自分の行動力の最大の成果だと思っています。1 年生の頃の自分だったら恥ずかしくて絶対にできなかったと思いますが、勇気を出して一歩を踏み出しました。SNS やアパレルの接客でたくさん発信するうちに、初対面の人と話すことへの苦手意識もなくなりましたね。

Q. これまでの人生で一番の「壁」と、それをどう乗り越えたかを教えてください。
A. 人生で一番の壁は「大学受験」です。高校 3 年生の 11 月まで偏差値が 40 しかなくて、理科大なんて全く手が届かない絶望的な状態でした。そこから「1 日 17 時間勉強、6 時間睡眠、1 時間はリフレッシュ」という過酷な生活を自分に課して、死ぬ気で猛勉強したんです。
その時に乗り越えられた一番の理由は「規律を守ったこと」だと思っています。朝起きてすぐ机に向かう、自分で決めたルールを絶対に守る。ネガティブに悩んでいる時間があったら、考える前にとにかくやる！ とポジティブに突き進んだ結果、ギリギリで合格をつかみ取ることができました。

Q. 神楽坂キャンパス内でお気に入りの場所はありますか？
A. 富士見校舎の「馬蹄教室（馬のひづめのような形の教室）」です！ コンセントもあって段々になっていて、海外の大学みたいで雰囲気がすごく良いんですよ。あそこでの授業は大好きですね。

Q. 最後に『TUS+』の読者へ向けてメッセージをお願いします！
A. 理科大には、理系らしさだけでなく色々な個性を持った人がたくさんいます！ 理大祭のステージでは僕もダンスなど色々なパフォーマンスを披露するので、ぜひ応援に来てほしいです。よろしくお願いします！



Entry NO.5



TAKAYUKI IMAI

Q. アンバサダーコンテストに応募したきっかけを教えてください。
A. 高校２年生から３年生にかけて、自分磨きをかなり頑張ってきたんです。大学に入ったら「その成果を試せるものに何か挑戦してみたい」という気持ちがあり、自分でそういう機会を探していた中で理科大のアンバサダーコンテストを見つけて応募しました。

Q. ご自身の最大のアピールポイントや、周りから言われる性格について教えてください。
A. アピールポイントは、冷静で物事に動じない「余裕感」や「安心感」です。自然とそうなった部分もありますが、「こういう自分でいたいな」と少し意識している部分でもあります。ただ、周りの友達からは「ポンコツ」と言われることもあって（笑）。自分ではあまり自覚はないのですが、そういうギャップが印象に残りやすいのかもしれません。コンテストの運営紹介では「ミステリアス」と紹介していただいて、自分ではあまりしっくりきていないのですが、たくさんの人に興味を持ってもらえるきっかけになっているなら嬉しいです。

Q. 理科大の創域情報学部情報理工学科を選んだ理由は何ですか？
A. 中学生の頃から親と相談して、理科大を最終目標のように見据えていました。この学科を選んだ一番の理由は「サッカー」です。昔からサッカー観戦が大好きで、特に海外サッカー（元レアル・マドリードのベイル選手やモドリッチ選手など）のレベルの高い試合をよく見ます。最近はサッカーの試合分析でも「データで見える化する」ことが主流になってきているので、データサイエンスを自由に幅広く学べるこの学科なら、自分の好きなことと結びつけられると思いました。高校時代は部活をやっていなかったので、今は野田キャンパスのサッカーサークルに入り、自分のペースでプレーするのも楽しんでいます。

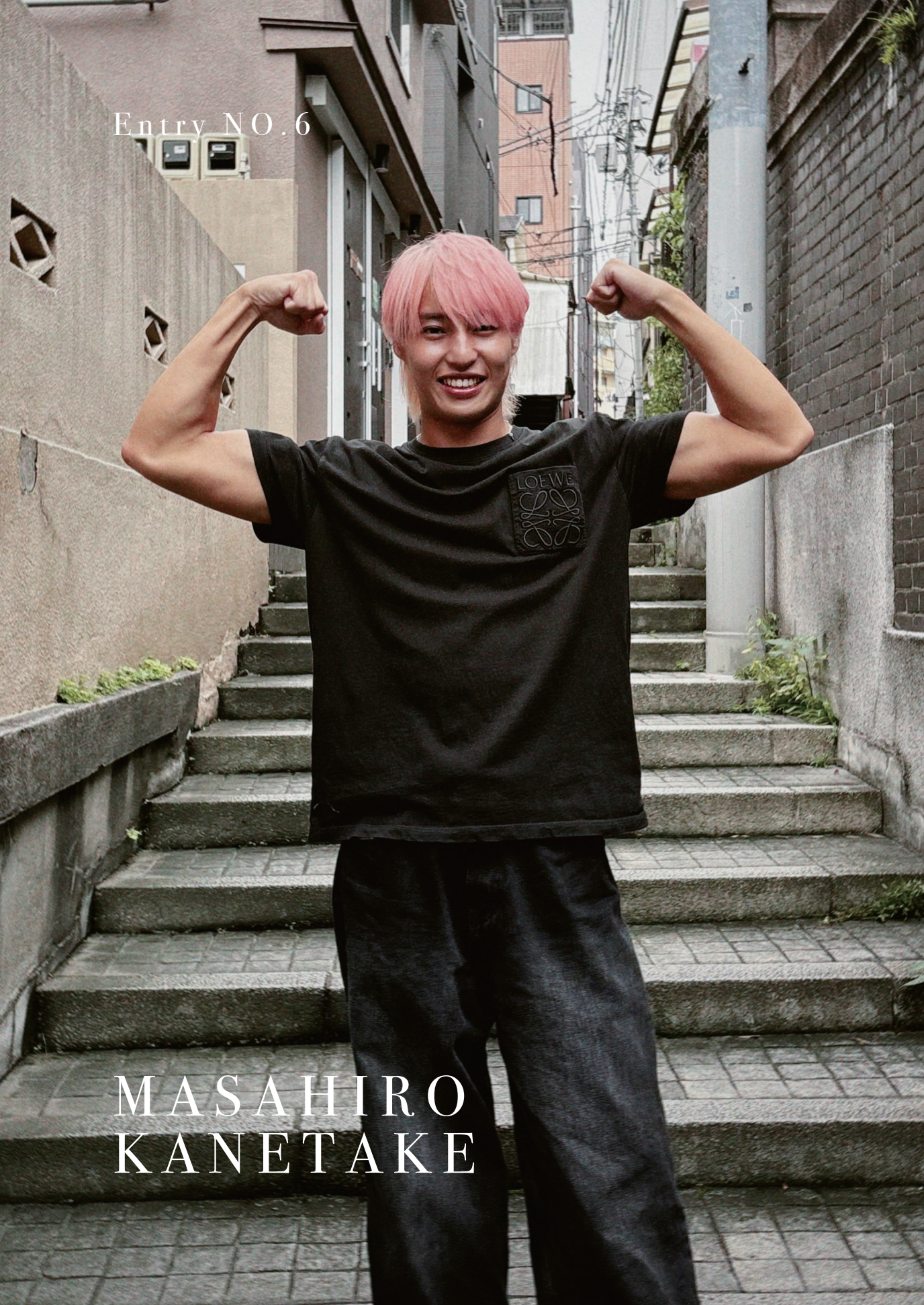
Q. 入学してから今までで、ご自身が一番変わったと感じる部分はどこですか？
A. 自分から友達をご飯に誘えるようになったことです。これまでは自分から誘うことはあまりなかったのですが、大学生になって一人の時間が増えたこともあり、「誰かとご飯に行きたいな」と思うことが増えて、多いときは週３回くらい夜ご飯に誘っています。ちなみに野田キャンパスのお気に入りスポットは、セブン - イレブンや「カナル（談話室）」がある周辺です。あそこに行けば自然とみんなに会えるので、そういう雰囲気が好きですね。

Q. 大学生活でぶつかった壁や、趣味・リフレッシュ方法について教えてください。
A. 前期の「統計」のテストが本当に難しくて、単位を落としてしまったことが一番の挫折です……。まだ乗り越えられていないかもしれませんが、友達と助け合いながら頑張っています。普段のリフレッシュは、YouTube を見たり、ダーツやカラオケ、ゲームをすることです。音楽は 90 年代の邦楽から最近の洋楽・ヒップホップまで幅広く聴きますし、ゲームは「ポケモン（特に XY）」が好きです。

Q. 今後叶えたい目標と、コンテストにかける想いを聞かせてください。
A. 将来の目標は、やはりサッカーに関わることです。「自分の好きなことを追求していく」ということを何より大事にしたいと思っています。また、人としては「なんでも許せるような、器の大きい自分」が理想です。コンテスト当日のステージパフォーマンスをやり切ることで、理想の自分に向けた大きな自信をつけたいと思っています。理科大は「勉強ばかり」というイメージが強いですが、学園祭のステージの熱狂など、「勉強だけじゃなくてこんなに楽しめる場所なんだ」という魅力を発信していきたいです！

Q. 最後に『TUS+』の読者へ向けてメッセージをお願いします！
A. 本番のステージまで精一杯頑張りますので、ぜひ応援よろしくお願いします！




Entry NO.6
MASAHIRO
KANETAKE

Q. アンバサダーコンテストに応募したきっかけを教えてください。
A. 一番の理由は、将来的に「シャッフルアイランド」のような恋愛リアリティショーに出演したいという目標があるからです。そのために知名度を上げたくて、大学生ならではのイベントであるこのコンテストに挑戦してみようと思いました。その目標に向けて筋トレにも力を入れていて、今年の8月にはボディメイクの大会にも出場し、メダルを獲得することができました。ちなみに髪をピンク色にしたのも、みんなが上半身裸で並ぶ大会のステージで「一番目立って見分けがつくように」という戦略がきっかけだったのですが、結果的にSNSでも覚えてもらいやすくなったので染めてよかったですね（笑）。

Q. ご自身の最大のアピールポイントは何ですか？
A. 圧倒的な「行動力」です。大学1年生の頃から営業や動画制作などの仕事を始め、現在はTikTokのライバー活動とライバー事務所の経営をしており、新たに不動産業も始めることになりました。今回のコンテストでも、原宿の竹下通りで「100人に投票してもらえるまで帰れません」という企画を自分で実行しました。お菓子を配りながら声をかけ続けて、3～4時間で100人達成しました。次は「山手線1周歩きます」企画もやろうかと考えています。

Q. 周りの人から「あなたらしい」と言われるのはどんなところですか？
A. ここ最近、周りの人やコンテストのメンバー、留学先で出会った人たちから「すごく謙虚だね」とよく言われます。ピンク髪なので第一印象はだいたい「チャラそう」「やんちゃそう」と最悪の印象から始まるのですが（笑）、実際に接すると「第一印象と全然違って優しい」と言ってもらえることが多いです。年齢的にも周りには年下が多いのですが、自分ではごく普通に接しているつもりなので、そうやって親しみを持ってもらえるのは嬉しいですね。

Q. これまでの人生で一番の挫折と、そこからどう変わったかを教えてください。
A. 一番の挫折は大学受験です。もともと核融合の研究者になりたくて、浪人して人生で一番勉強を頑張ったのですが、第一志望の京都大学に届かず、受験に向かう品川駅で1日に6回泣くほど落ち込みました。その後、同じく核融合の研究室がある理科大に入学したのですが、周りの学生の頭の良さに圧倒されて「勉強では勝てない」と2日目で研究者の道を諦めたんです。でも、そこで「卒業する時には第一志望に行った人たちよりも別のかたちでビッグになってやろう」と切り替え、勉強以外の新しいアイデンティティを探すために1年生からビジネスの世界に飛び込みました。高校までは「いい大学に入って、就活をしていい企業に行く」という固定観念がありましたが、そのレールから外れて自分の力で行動するようになったことが一番の変化ですね。

Q. 理科大の魅力と、葛飾キャンパスのお気に入りスポットを教えてください。
A. 理科大は「真面目で勉強漬け」というイメージが強いですが、実際に入ってみると意外と堅苦しくなくて、いろいろなギャップを持った面白い人が多いところが魅力です。「第一志望に落ちて理科大に来た」という人でも、そこから学べることはたくさんあるし、僕のように全く違う道を見つけることもできるよ、と伝えたいです。最近は自分のキャラクターを生かして「アラサー大学生の日常」というコンセプトの動画で理科大を発信したらバズるんじゃないかと考えています。葛飾キャンパスのお気に入りは、ノーベル賞受賞者の名前が刻まれているレンガの広場と、綺麗な図書館です。実は僕、2回留年していて今7年目なのですが、留年が確定したのを確認した思い出の場所も図書館です。今年は5回目の再履修科目もあるので、一番前の席で授業を受けて今年こそ卒業したいですね！

Q. 最後に『TUS+』の読者へ向けてメッセージをお願いします！
A. 理大祭当日は「5号館地下3階」のステージで本番を行っているので、ぜひ会場にお越しいただき、投票と応援をよろしくお願いします！



ITAMAE Innovative Technology Academic MAEstro
TiB Tokyo Innovation Base
SusHi Tech TOKYO Sustainable High City Tech Tokyo

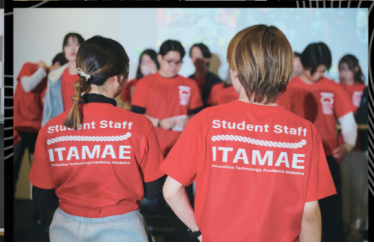
12/4(金) 応募締切

ITAMAEプロジェクト第4期 新メンバー募集中！

挑戦の熱源となれ。
起業の面白さを、世界に挑む魅力を、同世代へ。
そして、自分自身も次の舞台へ。

概要はこちら⇓





DATE
2026.11.21 (Sat)
13:45 OPEN / 14:00 START

VENUE
東京理科大学神楽坂キャンパス
5 号館地下 3 階体育館ステージ

STAFF
企画・編集｜望月 政博
取材・撮影｜青山 梗花 / 石渡 竣也 / 鈴木 渉平
徳永 悠祐 / 殿村 竜也 / 野口 瑞希 / 町田 結
望月 政博 / 森本 悠矢

SPECIAL THANKS
RFC（第 78 回神楽坂地区理大祭実行委員会）

TUS+　アンバサダーコンテスト特集号　Vol.23
2026 年 11 月 20 日発行
発行：東京理科大学新聞会
〒 162-0825
東京都新宿区神楽坂 1-3　2 号館 5 階 2515 部室

RFC Website
Official Website

TUS PRESS